

## 平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓の「自由と規律（自己規律）」を基本に、自らが社会のルールを守り、そして、仲間と力を合わせ、よりよい社会を形成する人材育成をめざす。そのためには、学習活動とクラブ活動の両立を図り「明るく・たくましく・心爽やかな」生徒を育成し、社会とつながる力を持たせて、社会に送り出すことが大切である。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

## (1) 学習指導の更なる推進

- ア 学習不振者には更なる補習を強化し留年生徒や転退学生徒を減少させる。
- イ 進学希望生徒達には授業内容の更なる工夫と、講習を通じて進路実現に向けて努力させる。
- ウ 新規採用4年目の教員を中心に研究授業に取り組む。
- エ 朝のショートHRを実施し、生徒の状況把握と更なる遅刻・欠席の減少を図る。
- オ 更なる授業改善に向け研究授業や公開授業を展開し生徒及び保護者等の授業評価を通じて指導の向上を図る。

また、教育センターのカリナビや研修を通じて指導力向上に努める。

※ 留年生徒（平成23年度 1.4%）を毎年0.2%減少させ平成26年度には1%以下にする。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を（平成23年度34%）毎年5%引き上げ、平成26年度には50%に引き上げる。

※ 遅刻欠席者数（平成23年度5033件）を毎年200件減少させ平成26年度には4400件以下にする。（12月末で比較）

## 2 夢と志を持つ生徒育成

## (1) 進路指導の充実

- ア 3年間を見越した指導に取り組み、1年生から計画的に各大学や専門学校そして職業教育等についてHR等を通じて指導する。
- イ 進路説明会は保護者が参加しやすいように基本土曜開催とする。
- ウ 1年の「情報の時間」に進路に関する課題（将来なりたい職業）を与え、情報機器等で情報を集めさせ、そのためには今何をすべきかを発表させることによりプレゼンテーション能力を育成するとともに、進路意識を明確にさせる。

※ 進学率90%以上。未定率1%以下を維持し、更に内容をアップさせ進学については最後まであきらめない精神育成のために一般入試受験（平成23年30%）を毎年1%増やし35%をめざす。

## (2) コミュニケーション能力の育成

- エ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、コミュニケーション能力を育成する。
- オ 文化祭等で生徒が自主的に活躍できる機会を多く設け自己肯定感を育成する。

## (3) 「生徒の志（こころざし）」を磨く

- カ 総合学習等の計画を再検討し「生徒の志」を更に育成する。

※ 生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率（平成23年度27%）を毎年5%引き上げ、平成26年度には42%にする。

## 3 安全安心で魅力ある学校づくり

## (1) 「生きた壁」となる教職員集団の構築

生徒が悩み不満をぶつけても暖かく受け止め、話を聞いてもらえる環境「生徒の居場所づくり」と、あかんものは、あかんと丁寧に対応する「規律指導」。これらのことを教職員集団が一人ひとり「生きた壁」となり生徒たちを育成する。

- ア 学年職員室を設置し、平素から生徒の状況について情報交換できる環境を作る。
- イ 教育相談体制を更に充実させ生徒や保護者そして教職員も安心して相談できる体制を作る。
- ウ 教職員を教育相談に関する研修に参加させ更なる指導力の向上を図る。
- エ 「すべての教職員が生活指導部」として取り組み、様々な事象に丁寧に適切に対応し「安全で安心な」学校づくりに取り組む

※ 生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率（平成23年度28%）を毎年5%引き上げ、平成26年度には43%にする。

※ 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成23年度33%）を毎年5%引き上げ、平成26年度には48%にする。

## (2) 共に学ぶ支援教育の更なる推進

- オ 様々な特性を持つ生徒達に互いの違いを認め合い「共に生きる」精神を醸成し、学校に来るのが楽しいと感じる学校環境をつくる。
- カ 支援が必要な生徒には適切な支援計画を作成し、組織として取り組む。

※ 生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度（平成23年度49%）を毎年5%引き上げ、平成26年度には64%にする。

## (3) 豊かな高校生活を送らせる

- キ 文化祭を更に活性化させるために、生徒自らが仲間と協力し内容のあるものになるよう教職員が支援する。
- ク 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、舞台発表の充実を図り、発信能力を向上させる。
- ケ 体育大会を更に活性化させるために何事にも全力で取り組む精神力と体力を育成する。
- コ クラブ入部率を上げ生徒の個性を育成する。
- サ 専門的知識と技術を持つ教職員を中心に、クラブ活動の更なる活性化を図り、さらに若手教職員の指導者養成にも取り組む。

※ 生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度（平成23年度49%）を毎年5%引き上げ、平成26年度には64%にする。

※ 保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度（平成23年度55%）を毎年5%引き上げ、平成26年度には70%にする。

※ クラブ入部率（平成23年度43%）を毎年2%引き上げ、平成26年度には50%にする。

## 4 地域と連携した学校づくりに取り組む

## (1) ホームページの充実

- ア ホームページを充実させ広報活動に努める。

## (2) 更なる地域連携に取り組む

- イ 地域連携行事として地元中学・保育園等と連携して運動系・文化系クラブを中心に地域交流行事を行う。
- ウ 文化祭の土曜開催

## (3) 広報活動の充実

- エ 本校で開催する学校説明会を土曜開催とし、中学生徒・保護者が来やすい環境を作る。
- オ 広報委員会を設置し中学校訪問等を計画し全職員で取り組む。

※ 今年度から地域向け学校教育自己診断を実施し、開かれた学校に関する項目で満足度を50%以上をめざす。

また、毎年5%引き上げ、平成26年度には65%にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 12 月実施分]</p> <p><b>【学習指導等】</b> ( ) 内の数字は昨年度の肯定的な数値を表す(生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価の方法については、よく理解している (H23:47%) は 61% と上がっている</li> <li>・学校へ行くのが楽しい (H23:56%) 56%と感じている反面、授業についてはわかりやすい (H23:32%) が 44.5%と改善したが、更に改善する必要あり。</li> <li>・特別活動等については、半数以上の生徒が積極的に参加している (H23:52%) が 56%と改善しているが、更に推進する必要あり。</li> </ul> <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価の方法については、保護者もよく理解している (H23:61%) が 59%と少し下がった。今年度は昨年より 200 名以上回答が増えたためか、更に啓発する必要があると感じている。</li> <li>・子どもは学校に行くのを楽しみにしている (H23: 65 %) 68%と感じている反面、子どもは授業が解りやすいが (H23:項目なし) 27%と課題が残っている。教職員の指導法について更なる研修が必要である。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <p>(生 徒) 学校の生徒指導方針に納得している。(H23:28%) 27%</p> <p>(保護者) 学校の生徒指導方針に共感している。(H23:53%) 45%</p> <p>(教職員) 学校の生徒指導方針を理解している。(H23:73%) 77%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では頭髪指導を含め規律指導には厳しく対応しており、特にスカート丈の指導を強化している事が反映しているものとする。</li> </ul> <p>遅刻者数が昨年度より増えたことについては、遅刻指導の基準をより厳しくして対応する。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>(生 徒) 学校へ行くのが楽しい (H23:56 %) が 56%</p> <p>学校の雰囲気満足している (H23:27%) が 27%</p> <p>(保護者) 学校へ行くのを楽しみにしている (H23:66%) が 68%</p> <p>(教職員) 学校運営については、概ね良好であると感じている。(H23:67%) が 77%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に対する学校教育自己診断は 2 月に実施。全体としては評価が上がっているように思う。ただし、コンピュータ等の情報機器の活用、部活動の活性化、平和問題や国際理解・福祉ボランティアなどの教育課題に対する質問項目については、あまり当てはまらないという数字が大きく次年度への課題と思われる。</li> </ul>	<p>第 1 回 (6/7)</p> <p>○学校協議会実施要綱について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな組織としての学校協議会について説明し、現状の役員体制が実施要綱と合致している事から、現状の態勢で取り組んでいただくことを了承頂く。</li> </ul> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年職員室の設置について報告、必要な対策であると評価を頂く。</li> <li>・生徒の情報共有化とコミュニケーションを更に進めるために、二学期より SHR の実施を報告。必要な対策であると評価を頂く。</li> <li>・ホームページの更新については、台風情報や修学旅行など、リアルタイムな情報提供を行うよう助言を頂く。</li> <li>・さらに、情報の共有ツールとして「ハナマルメール (無料)」などを協議会の委員から提案頂いた。</li> </ul> <p>学校の満足度が上がれば、地域にも広がる。また、生徒の満足度が上がれば、保護者の満足度が上がる、と助言を頂いた。</p> <p>第 2 回 (12/19)</p> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年職員室の設置と SHR (二学期から実施) の実施状況について報告。必要な対策であり成果が出ていると評価を頂く。</li> <li>・各分掌から現状を報告</li> </ul> <p>特に 3 年生の進路状況では 24 名の就職希望者が全員決定したこと、その内公務員が昨年度 2 名から今年度 5 名 (その内国家公務員 1 名) と躍進したこと、進学については関大 (2 名) ・近大 (8 名) ・大阪大谷大学薬学部 (1 名) その他看護系進学 (24 名) など、昨年度と同様の数となるが、内容が改善されていると評価を頂いた。</p> <p>第 3 回 (3/26)</p> <p>○学校経営計画に基づく現状報告および分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力の育成では、学習不振者への学習指導の強化による、留年生徒の減少の達成報告。また、SHR の導入実施を報告。成果が上がっていると評価を頂く。</li> <li>・夢と志を持つ生徒の育成では、実践的キャリア教育・職業教育支援事業等を活用し、進路実現の成果が上がっていることを報告。高評価を頂いた。</li> <li>・安全安心で魅力ある学校づくりでは、生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する満足度、教育相談に関する満足度等の目標達成を報告。評価をいただく。</li> </ul> <p>○次年度への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる授業力の向上を目指して欲しい、そのための研究授業やその内容・方法等も同時に工夫して欲しい。</li> <li>・プレゼンテーション能力を向上させて欲しい。技術面 (コンピューター操作など) と実践面 (人前で話す・スピーチなど) の両面を踏まえて。</li> <li>・少人数展開授業の実践と内容の工夫を行って欲しい、結果きめ細やかな教育の実践につなげていけるよう願う。</li> <li>・遅刻が昨年度より増えたが、SHR の導入・実施により、開始時刻が 5 分早まり遅刻のカウントをより厳格にしたことも影響している。SHR の内容を工夫して活用策を検討して欲しい。</li> </ul>

## 府立貝塚南高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 学習指導の更なる推進 ア 学習不振者には更なる補習を強化 イ 進学希望生徒達には授業内容の更なる工夫と、講習 ウ 研究授業の推進 エ ショートHRの実施 オ 更なる授業改善	(1) ア・新入生から学習不振者に対して更なる補習を強化し留年生徒の減少に取り組む。 イ・進学希望生徒達には授業内容の更なる工夫と、講習を通じて進路実現に向けて努力させる。 ウ・新規採用4年目の教員を中心に研究授業に取り組む。 エ・朝のショートHR実施し、生徒の状況把握と更なる遅刻・欠席の減少に努める。 オ・更なる授業改善に向け研究授業や公開授業を展開し生徒及び保護者等の授業評価を通じて指導の向上を図る。また、教育センターのカリナビや研修を通じて指導力向上に努める。	ア・イ・ウ・オ ・留年生徒(平成23年度1.4%)を1.2%以下にする。 ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成23年34%)を39%にする。 エ ・遅刻欠席者数(平成23年度5033件)を4800件以下にする。(12月末で比較)	ア・イ・ウ・オ・欠点保持者には毎学期の補習を受講するよう保護者連絡等を通じて徹底指導し実施した。結果は3年3名・2年7名・1年0名、計10名1.06%(○) イ 進路実現:進学では・関大(2)・近大(8)大阪大谷薬学部(1)・桃山大学(51)・その他看護系進学(24)等成果が出ている。(◎)また、就職においては国家公務員(1)・警察(3)消防(1)など昨年度1名と比較すると、公務員講習の成果が大きく寄与している(◎)更に、一般就職では20名全員合格である。(◎)継続して取り組んで行く。 ・授業満足度37%で少しの上昇(○) エ 朝のショートHRを二学期から実施し生徒状況把握体勢が出来た。(◎)遅刻については残念ながら、増えてしまったが、これまでの各教科担当がカウントする体勢に個人差があったことや2年3年生の新たな取組に対応できなかったことが原因と思われる、新たな、課題が見えてきたことで次年度は減少に向けしっかりと取り組む。 遅刻3992 欠席2854 計6846(○) オ 新規採用教員4年目を対象とした研修の実施とパッケージ研修を実施し、多くの教職員も参加させ指導力向上につながった。(○) 次年度も授業改善に更に取り組む。
2 夢と志を持つ生徒育成	(1) 進路指導の充実 ア 3年間を見越した指導、 イ 進路説明会の充実 ウ プレゼンテーション能力の育成 (2) エ コミュニケーション能力育成 オ 自己肯定感の育成 (3) カ 「生徒の志(こころざし)」を磨く	(1) ア・3年間を見越した指導に取り組み、1年生から計画的に各大学や専門学校そして職業教育等についてHR等を通じて指導する。 イ・進路説明会を基本土曜開催とする。 ウ・1年の「情報の時間」に進路に関する課題(将来なりたい職業)を与え、情報機器等で情報を集めさせ、そのためには今何をすべきかを発表させることによりプレゼンテーション能力を育成するとともに、進路意識を明確にさせる。 (2) エ・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、コミュニケーション能力を育成する。 オ・文化祭等で生徒が自主的に活躍できる機会を多く設け自己肯定感を育成。 (3) カ・総合学習等の計画を再検討し「生徒の志」を更に育成する。 また各種ボランティア活動や地域交流会を通じて志を育成する。	ア・イ ・進学率90%以上。フリーター1%以下を維持 ウ・エ・オ・カ ・生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率(平成23年度27%)を32%以上にする。	ア・イ ・進学率90%以上達成(○) また、就職24名希望が100%達成し、特に国家公務員1名含め公務員が5名合格と成果が出ている。また、フリーター希望も2名と1%以下となっている。(◎)次年度も継続して取り組む。 イ 進路説明会(土曜)に多くの保護者にも参加いただいた(○)次年度も継続する。 ウ 教科情報で実施し、少しではあるが進路意識向上につながった(○)次年度は進路と連携したプレゼン大会等を計画したい。 エ 昨年に続いての実施で、生徒の取組も昨年より向上している。進路実績でも良い成果が出ている(○)次年度も継続して取り組む。 ウ・エ・オ・カ ・生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率は27%(H23:27%)で変わらず(△)文化祭等の行事を通じて生徒の活躍の場を多く設け、自己肯定感を育成に取り組む。
3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 「生きた壁」となる教職員集団の構築 ア 学年職員室設置 イ 教育相談の充実 ウ 指導力向上 エ 安全安心な学校作り (2) 共に学ぶ支援教育の更なる推進 オ 共に生きる精神醸成 カ 支援計画作成 (3) 豊かな高校生活を送らせる キ 発信能力の向上 ク 精神と体力の育成 ケ クラブの活性化 コ 指導者育成	(1) ア・学年職員室の設置 イ・教育相談体制の充実 ウ・研修に参加させ更なる指導力の向上を図る。 エ・「すべての教職員が生活指導部」として取り組み、様々な事象に丁寧に適切に対応し「安全で安心な」学校づくりに取り組む。 (2) オ・様々な特性を持つ生徒達に互いの違いを認め合い「共に生きる」精神を醸成させ、学校に来るのが楽しいと感じる学校環境をつくる。 カ・適切な支援計画を作成し、組織として取り組む。 (3) キ・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、舞台発表の充実を図り、発信能力を向上させる。 ク・体育大会を更に活性化させるために何事にも全力で取り組む精神力と体力を育成する。 ケ・クラブ入部率を上げるために新1年生からクラブ体験を実施する。 コ・専門的知識と技術を持つ教職員を中心に、クラブ活動の更なる活性化を図り、さらに若手教職員の指導者養成にも取り組む。	ア・キ・ク ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における満足度(平成23年度28%)を5%引き上げ33%以上にする。 イ・ウ ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成23年度32.5%)を37%以上にする。 エ・オ・カ ・生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度(平成23年度49%)を54%以上に キ ・保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度(平成23年度55%)を60%以上に ク ・クラブ入部率(平成23年度43%)を45%以上に ケ ・クラブ入部率(平成23年度43%)を45%以上に コ ・年間3回以上	ア・キ・ク ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における満足度29%(H23:28%)であまり変わらず。更なる取組が必要(△) イ・ウ ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度は36.5%(H23:32.5%)で概ね達成した、継続して取り組む(○) エ・オ・カ ・生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度56%(H23:49%)で目標を達成した。継続して取り組む(◎) ・保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度52%(H23:55%)で目標を達成できなかった。今年度から新たな質問形式で行い昨年度より多くの保護者から回答を得た。更なる改ざんに向けて取り組む(△) キ キャリア支援事業は二年目を迎え、生徒も意欲的に取り組んでいる。次年度も取り組む(○) ケ ・クラブ入部率(平成23年度43%)は42.2%と昨年度とあまり変化が見られなかったが、ハンドボール部が府下で五位入賞、女子バスケットボール8位など内容的には改善している。更なる活性化に取り組む(△) コ 仕事量が多く、また再任用等年配の教職員が多いため、指導者育成に積極的には取り組めなかった。クラブ指導者の育成に取り組む(△)
4 地域と連携した学校づくり	(1) 広報活動充実 ア ホームページの更新 (2) 地域連携 イ 地域交流行事開催 ウ 文化祭(土曜) (3) 広報活動の充実 エ 学校説明会 オ 広報委員会設置	(1) ア・基本一カ月に一度ホームページを更新し更に新しい情報はその都度更新し広報活動に努める。 (2) イ・地域連携行事として地元中学・保育園等と連携して運動系・文化系クラブを中心に地域交流行事を行う。 ウ・文化祭の土曜開催 (3) エ・本校で開催する学校説明会を土曜開催とし、生徒保護者が参加しやすい環境を作る。 オ・広報委員会を設置し中学校訪問等を計画し全職員で取り組む。	ア・イ・ウ・エ・オ ・地域向け学校教育自己診断で、開かれた学校に関する項目を設け、初回は満足度50%をめざす。 オ ・年間3回以上	ア・イ・ウ・エ・オ ・地域向け学校教育自己診断で、開かれた学校に関する項目は、多くの学校や地域から本校を理解頂いていると回答を得たが、生徒に対する広報として、ホームページよりポスターなど紙ベースが必要と指摘があった。次年度は改善したい。(○)、 イ 1月に実施したが、地域からの参加者は少なかった。開催時期や方法について再検討する(△) ウ 土曜に開催し、少しではあるが活性化できた(○) エ 学校説明会を土曜に開催し多くの保護者に来校いただいた(○) オ 年間3回、全教職員の協力を得て中学校訪問を実施した(○)また、入試前に貝南ポスターを作成し関係中学校に送付し受験に備えた。(○)